

## eラーニングの先進的事例調査報告書

平成 25 年 3 月 31 日

様

大学間連携共同教育推進事業  
研究員 小田奈緒美 ㊞

大学間連携共同教育推進事業「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」プロジェクトにおいて、「eラーニングの先進的事例」の視察を行ったので、その結果を下記のとおり報告します。

### 記

1. 調査日時	① 平成 25 年 3 月 14 日（木） 18：00～20：00（2H） 視察事前ミーティング（城市飯店会議室） ② 平成 25 年 3 月 15 日（金） 9：30～11：30（2H） 視察（台湾師範大学 OIA Lounge）
2. 視察先	国立台湾師範大学 10610 台北市大安区和平東路 1 段 162 号
3. 視察目的	平成 24 年度文部科学省大学改革推進等補助金「大学間連携共同推進事業—愛知県内教員養成高度化支援システムの構築—」の採択により、国公立の 5 大学が、愛知教員養成コンソーシアムを構成し、事業を実施する。事業の実施にあたり、国内における遠隔講義を実施する国内の大学を实地視察するとともに、担当教員からの情報収集を行うことで、5 大学間での遠隔講義の開講に有効な手法を発見することを目的とした。
4. 視察内容 (調査)	① 教員養成について ② eラーニングの実施について ③ 単位互換システムについて
5. 参加者 (大学別・ 敬称略)	・桜花学園大学 保育学部 教授 近藤正春 ・桜花学園大学 准教授 Jeff Mehring ・愛知教育大学 教育担当理事・副学長 岩崎公弥 ・愛知教育大学 理科教育学・科学教育 教授 吉田淳 ・愛知教育大学 教育養成高度化センター長 教授 添田久美子 ・愛知教育大学 教育研究支援部長 三宅育夫 ・愛知教育大学 大学間連携共同教育推進事業 研究員 小田奈緒美
6. 所見	別添えのとおり

## e ラーニングの先進的事例調査報告書

小田奈緒美

### 1. 視察先概要

国立台湾師範大学は、1946年に国内の12の師範大学のなかで最も早く設立され（前身は台湾省立師範学院）、充実した学部・大学院を擁して国内の中等教育に携わる優秀な教師陣を養成してきた教育大学である。1967年に国立台湾師範大学（以下、師範大学）と改定され今に至る。

1994年に政府は教師の資質養成のための多元化政策として「師資培育法（教師の資質養成法）」を実施したが、師範大学は教育への社会の要求に応えるべく、10年余りの着実な学術的実績のもとに積極的に総合大学へと転換し、いまでは文学部、理学部、教育学部、芸術学部、音楽学部、科学技術学部、運動レジャー学部、国際及び僑教学部、経営学部、社会科学学部の計10学部と58の学科・大学院を擁するまでになっている。師範大学のキャンパスは三つあり、メインキャンパス、公館キャンパス（理学部）、林口キャンパスで成り立っている。

国際交流の各分野の推進にも力を入れ、海外からの学生の受け入れを積極的に行なっている。現在、世界各地の大学と姉妹校提携を結んでおり、その数は250校以上に及ぶ（中国、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、ポーランド、ルーマニア、オーストリア、日本、韓国、ニュージーランド、オーストラリア等）。

今日ではさらに、中学および高等教育機関での教員養成機関以外に、高等教育の発展および社会の需要に応えるために科学技術や管理方面の学科・大学院、例えばマスメディア、翻訳、中国語教育、ヨーロッパ文化、東アジア文化、光電テクノロジー、情報工学、放送、機械・電気テクノロジー、表現芸術、スポーツとレジャー、スポーツ競技などの増設が進められている。台湾師範大学は、未来を展望してこれまで培ってきた豊かな人文科学の基礎のうえに、現代科学の知識教育を行い、さらに国際化、情報化、企業化を強化して、「古典風華、現代視野（古典の素養をそなえ、現代的視野を有する）」をそなえた、アジアで一流の世界に冠たる総合大学を目指している。

2011年7月に公示されたWebometrics世界大学ランキング（Webometrics Ranking of World's Universities）において、台湾師範大学はアジア大学ランキング17位、世界大学ランキング176位であった。また、大学全体における外国人学生（国語教学センターの学生も含む）は4000人以上を超え、多元化、国際化を兼ね備えた大学である。

大学本部は台北市の和平東路にあり、交通は大変便利で、MRT（都市鉄道）の古亭駅あるいは台電大樓駅で降りて徒歩8分である。周囲には多くのショップがあり、また有名な「師大夜市」があつて学生生活は快適に過ごせる。



国立台湾師範大学キャンパス（正門前）

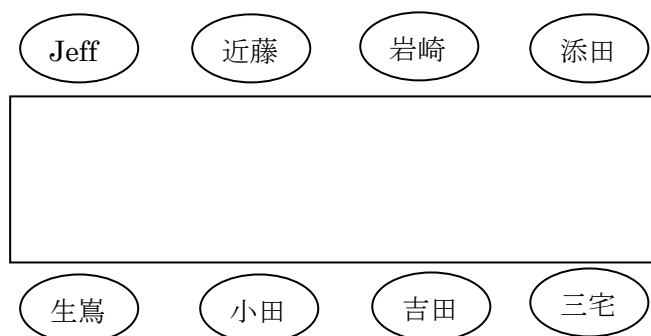
師範大学の学生および教職員数

台湾師範大学の学生および教職員総数	
学生総数（大学部および大学院を含む）	10,893
大学部	6,651
大学院	4,242
常勤教師数	853
非常勤教師数	491
職員	555

## 2. 視察事前打ち合わせ概要

日時	2013年3月14日(木) 16:50~18:30		
場所	台湾 台北・城市商旅ホテル会議室		
参加者	・桜花学園大学 保育学部 教授		近藤正春
	・桜花学園大学 准教授		Jeff Mehring
	・愛知教育大学 教育担当理事・副学長		岩崎公弥
	・愛知教育大学 理科教育学・科学教育 教授		吉田淳
	・愛知教育大学 教育養成高度化センター長 教授		添田久美子
	・愛知教育大学 教育研究支援部長		三宅育夫
	・愛知教育大学 大学間連携共同教育推進事業 研究員		小田奈緒美
	・愛知教育大学 学校教育講座 講師		生寫亜樹子

### 【配置図】



\*2 大学8名にて実施（敬称略）



事前打ち合わせの様子（城市飯店会議室）

## 2.1 台湾の教育制度について

### ① 台湾の教育制度

<添田先生より、資料に基づき次のとおり説明があった。>

- ・ 台湾では、現在、小・中学校の9年間が義務教育期間であり、授業料なしで教育を受けることができる。
- ・ 2003年以降、高等学校でも準義務教育化（授業料あり）を進めているが、あまり進んでいない状況である。
  - 日本の高等学校に相当するものとしては、「高級中学」と「職業学校」の2つがあるが、現在、差別化をなくすため「地域総合型学校」への移行がみられる。
- ・ 台湾にも、日本の学習指導要領に相当するものがあり、それに基づき教育が行われている。公用語は北京語である。
- ・ 日本との相違点では、小学校低学年から英語が導入されており、土日は休みである。
- ・ 大学は、1980年以前は私立がなかったが、急速に増加し、2009年には、私立大学が164校にも達した。また、大学への進学率は70%を超えている。
- ・ 大学は規模により総合大学（研究型）、単科大学（教育型）、学院（コミュニティカレッジ型）に分けられる。
- ・ 1994年に「師範教育法」が改正されるまで、公務員（教員）は師範大学のみでしか養成することができなかった。
  - 1994年以降は、「師資培育法」の成立により、一般大学にも教員養成センターが設

立され、1995年には「教師法」により教員の身分は公務員ではなくなった。

- ・ 現在、各県、市、学校が試験を実施の上、採用している。
  - 最初の5年間は全員契約社員となり、1年+2年+2年と更新することができる。その後、5年毎にも更新するが、解雇されることはない。
- ・ 台湾では、少子化が進み、教員は増えない傾向がある。そこで、現職教員の研修を充実させることとなった。
  - 台湾では、研修は「進修」と研究とからなり、小・中・高等学校の教員全員が、年1単位を取得するか、1単位相当の18時間の「研修」への参加が義務づけられている。

## ② 意見交換

- ・ エリートは、国立台湾師範大学などの理系に進学する。
  - 教員は、学位を持っている人が多く、若く元気な教員も多い。
- ・ 卒業後の教育実習1年間ののち、辺校（大学に戻り授業を受ける）がある。
- ・ 就職浪人も多数いるのは、教員試験になかなか受からない背景がある。
- ・ 1990年くらいから不景気により教員の間口が少ないことから、各大学で採用数を上げるために教育する制度が取り入れられた。
  - 大手の方が、教員よりも給料は良いため、優秀な学生は大手企業に流れる傾向にあり、教員は安定を求める人向けの意識が高いかもしれない。
- ・ 教員の雇われ方は多数あり、不明確である。
  - 学校が直雇いもあるが、やめた方が良いとの話も聞かれる。
- ・ 教員養成キャリアセンターにてeラーニングの講習を行っている。
  - 学生よりも、現職の教員向けの方が、マーケットが大きいいため、そちらの講習などに力を入れていることが多い。
  - 年間1単位（15コマ：18時間相当）
- ・ 韓国の進学率は80%以上であるが、台湾も70%以上と多い。
- ・ 台湾では、海外で得た単位も審査にかければ認められ、必要数を満たせば台湾の教員免許がもらえる。（アメリカでは読替えも多い。）
  - 台湾の子が愛教大に来て単位を取得し、その後台湾に帰り教員になることもできる。

## 2.2 台湾の高等教育について

＜生寫先生より、台湾の高等教育について資料を基にご説明いただいた。＞

### 2.2.1 台湾の教育制度の概要

- ・ 台湾は、日本の九州の85%程の面積を持ち（オランダと同じくらい）、約200の大学がある。（2011年データ）

- ・ 大学（112校）、専科学校（36校）、学院（15校）の3つに大別される。
  - 1990年代前半までは、学院と専科学校の2つが多かったが、その後名称変更などが行われた。
- ・ 台北教育大学や台中教育大学は2004年頃大学という名称に変わった。（中身は同じ。）
- ・ 1994年に4/10（スーイーリン）運動という教育運動をきっかけに民主化を中心とした教育改革が行われた。
  - 大学教育法、教員養成法の改正や、大学の自治・民主化などが進んだ。
- ・ 計画養成の頃は、教員は税金も無料であった。
  - インターンの学生には、24000円が支払われることもあった。

### 2.2.2 台湾のeラーニング導入事例

- ・ 台湾は、IT立国として進んでいる。
  - オープンコースウェアコンソーシアムが2008年に発足し、2012年には社団法人化された。加盟大学は28校あり、台湾師範大学もその1つである。
- ・ 100の教材を視聴することができる。
- ・ 台湾師範大学では、eラーニングを行うにあたり、専任の事務職員を置き、「オープンコースウェア（開放式課程）」を実施している。
- ・ 教員試験の合格率は1994年以降、95%から60%程に下がった。
- ・ eラーニング教材は、オープニング2分程で授業の心構えを教員が解説し、その後実際の授業場面を45分程流す。
  - 授業の様子は、普段の様子をそのまま録画したものであり、各教科1~2つある。
  - 現職教員になった際の事務手続きの方法なども学ぶことができる。
- ・ 国立空中大学は、日本の放送大学のようなものである。
  - 担当教員によるオンラインでのWebミーティングが行われ、〇時からやるという告知をWeb上で行い、人が集まる形式である。

### 2.2.3 日本におけるeラーニングによる教員免許状更新講習について

#### ① 日本におけるeラーニングによる教員免許状更新講習

- ・ 国内では、11校の開設がある。
- ・ 八洲学園大学：eラーニングの単位制に力を入れており、双方向ライブでの授業やチャットにより教員に質問することができる。
  - 通信制の大学で、免許状の更新もできる。
- ・ 佐賀大学：独自のスタジオを持ち、選択の授業を中心に行っている。
- ・ 桜美林大学：教材の内容が、講義+ドラマ仕立てとなっており、保護者と子ども役を寸劇で作り、講師が話を解説するしくみを取っている。

## ② 質疑応答

- 台湾の付属大学による模範授業では、どのような分野があるのか。
  - 免許法上の講座は、単位取得とどう結びついているかはわからない。
  - 卒業後のフォローアップをしているのではないか。
- 完全計画養成の頃は、台湾師範大学のみが教員認定をしていたため、教員は100%師範大卒であったが、現在は合格して教師になる教員の半数が師範大卒に減少している。
- 学部在学中にeラーニングを利用しているかどうかは不明である。
- オープンコースウェアコンソーシアムに加盟している28校は、各種学校が入っている。
- 教員養成大学の規模は比較的小さい学校が多いため、1校では難しい。
- 名大は、シラバスのみ公開している。
  - 一般、学生向けに授業内容を知る機会を帝京している（資料提供）。
- コンテンツ作りは授業担当者＋スタッフがいるのか。
  - 授業は生撮りで、特に手を加えることは少なそうである。
  - 台湾の小・中学校は電子化が進んでいる。
- 台湾師範大学は、147の教材は特別に作成した。
  - キャリアセンターに専門部門があるのではないか。
  - ある程度はフォーマットがあり、それをフォローするスタッフがいるのではないか。
- 教育GPで、学生が教育実習中の授業の様子を録画し、それを教員に送り、チェックしてもらおうことをやりたかったが、セキュリティの問題で実現はできなかった。
  - 学生は、担当教員からコメントをもらえると双方向において力強い支援となる。
  - 学部生は3週間の教育実習、教職大学院は2ヶ月の実習となり、指導力につなげるには、一度の学校訪問だけでは限界がある。
  - 事前指導も含め、進めることが大切である。
- 教育実習は、各学校の指導教員のレベルにより実力のつき方が異なってしまう。
  - 今は、教育実習が各学校に丸投げになってしまっている。
  - 大学院の中で、2～6単位を入れ、eラーニングでできれば良い。
- 琉球大学など、実習の途中で1回大学に来させてメンタル面や指導力の改善をする取り組みをしている大学もある。
- eラーニングは、何%の割合で導入しているのか。
  - 個別対応やチャットがどれだけ活用されているのか。
  - 金沢大学では、生徒から教師への質問は、ほとんど来ないと言っていた。
- フロリダでは、ドクターコースの授業において、その日のうちにeラーニングを見て学生から教員にレスポンスをし、教員が回答する取り組みもある。
  - 一人しか回答はできないのか。
  - 退職した校長先生などに、在宅でやってもらったりするなど、大学教員でなくても



対応可能かもしれない。

- ・ 台湾師範大学は、同時配信はあるのか。
  - 不明である。見当たらないように思う。
- ・ eラーニングの科目では、問題解決や学級経営、マイクロティーチングなど、現職教員から学生まで網羅できる内容である。(教科を充実というより、それぞれの領域から)
- ・ 大学間での取り組みにおいては、教科内容に関する科目も必要ではないか。(教職関連授業のみでは不足ではないか。)
  - 桜花学園は、どちらかといえば教職の方が関心はある。本科の専門分野は教員免許状更新講習での希望は多く、現職教員の方のキャリアアップのニーズがあると思う。
  - 高校は教科、小学校は教育法など、内容を工夫していけばよいのではないか。



生寫先生による台湾師範大学のeラーニングに関する説明の様子

### 2.3 国立台湾師範大学での視察・質問内容について

- ・ 視察内容および質問内容の共有および確認を行った。
- ・ スケジュールは、9時30分に師範大学に到着し、11時30分までのレセプションで説明および質問を行い、キャリアセンターの視察の有無などについてもお聞きする。
  - eラーニングの担当者に具体的にお話を伺う。
  - 研究者とスタッフとの関わり方などについても確認したい。
  - 教材製作課程と実態を把握できると良い。

- ・ 特に、次のような点を確認できると良い。
  - ① eラーニングは、卒業後のフォローアップという位置づけか。
  - ② eラーニングは単位を取得できるのか。
  - ③ 受講学生のレスポンスと評価はどのような状況なのか。教員免許状更新講習のような試験があるのか。
  - ④ コンテンツの開発方法は、どのように行っているのか。
  - ⑤ 教員の関わり方はどのようなのか。
  - ⑥ 受講対象者は、学生のみなのか、一般の方も含まれるのか。
- ・ いいコンテンツであれば、お金を払ってでも受けたいと思うはずである。（合格率は、入学生の獲得の際のメリットにもなるため。）
- ・ 韓国では、教員になれる地域に、全国から人が集まることもあるようである。
  - 教員を募集している地域の教育大学を卒業していないと、採用試験を受けることができないシステムになっているため。
  - ⑦ 学部卒業後の1～5年の実習などについてお聞きしたい。
- ・ 大学院の位置づけは、どのようになっているのか。
  - 大学学部のアフターケアをするのか、現職教員のキャリアアップ（現職研修）か。
  - 毎年1単位の取得を義務化しているため、研修時間は日本よりも確保されており、休日や授業後に研修を受けるわけではない。
  - 小・中・高等学校では専修免許取得者が増えているようである。
  - 塾も盛んであり、かなりの率で塾に通う子がおり、親も熱心である。
- ・ オンライン上では、何を使っているのか。
  - 台湾では、大体の大学に Moodle が入っている。独自システムのところもある。
- ・ 佐賀大学では、研究者がどれだけ入るかよりも、クリエイターがどれくらいの技術を用いて製作するか、という話であったが、台湾のコンテンツ制作でも同様か。
- ・ コンテンツが一方的じゃないものが作れるか。講義だけではつまらないと思うので、どれだけコンテンツを工夫できるかが重要である。
  - DVD では、悪いところも見せつつ、反面教師にして欲しいと思うが、飽きずに見てもらえるものを作りたい。
- ・ ベテランの教師が作り、4台のカメラで生徒の動きもとらえ、40分丸々授業を見せるのではなく、重要な箇所一部のみをピックアップして、生徒が発見しなければならないような凝った作りをする実習ビデオは、手間がかかる。
  - どこを見て欲しいのか、どこに気づいたか、という点を明確にして制作しないといけないため。

### 3. 視察内容

#### 3.1 視察・インタビューでの質問事項

2時間の時間で師範大学における教員養成およびeラーニングの取り組みに関するご説明を受けるとともに、質疑応答を実施した。

#### 3.2 国立台湾師範大学側出席者

国立台湾師範大学 陳 秋蘭氏

国立台湾師範大学 張 民杰氏

国立台湾師範大学 汪 耀華氏

国立台湾師範大学 黄 敏蕙氏

##### 【事務局】

国立台湾師範大学 楊 奕心氏

##### 【通訳】

大学院生 伊藤健氏

大学生 鐘羽婷氏

#### 3.3 視察者側出席者

桜花学園大学 教授

近藤正春

桜花学園大学 准教授

Jeff Mehring

愛知教育大学 理事

岩崎公弥

愛知教育大学 教授

吉田淳

愛知教育大学 教育養成高度化センター長 教授

添田久美子

愛知教育大学 教育研究支援部長

三宅育夫

愛知教育大学 大学間連携共同教育推進事業 研究員

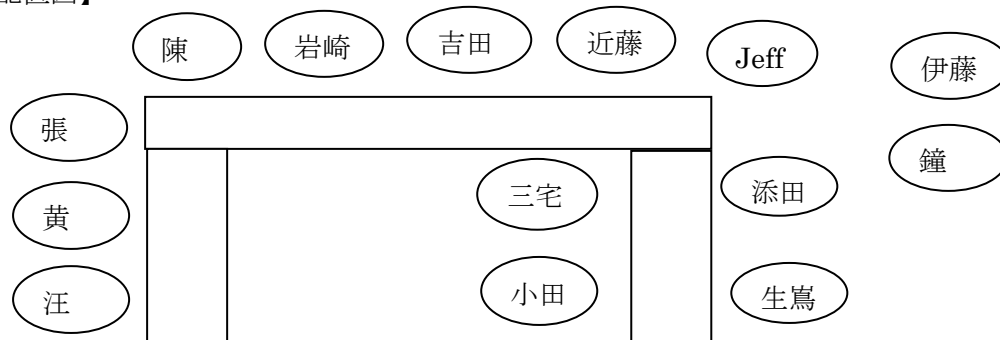
小田奈緒美

愛知教育大学 講師（コーディネーター）

生寫亜樹子

\*2 大学7名にて実施（敬称略）。

##### 【配置図】



### 3.4 視察・インタビュー議事録

＜今回の視察訪問に際し、台湾師範大学：陳 秋蘭氏および愛知教育大学：岩崎公弥理事より挨拶があった。＞

陳氏：台湾師範大学と愛知教育大がとは、2010年から交流を深めている。また、今後ともよろしく願います。本日は、このレセプションにて、それぞれの取り組みについて3名の先生から説明をいたします。

岩崎氏：この度の視察においては、貴学においてICTの取り組みが進んでいるとお聞きしたので、各種取り組みを視察させていただき、今後の参考にしたいと考えております。今日はどうぞよろしく願います。



岩崎理事による挨拶の様子

#### 3.4.1 国立台湾師範大学における教員養成について

##### ① 教員養成の取り組み

＜国立台湾師範大学における教員養成の取組について、張 民杰氏にご説明いただいた。＞

- ・ 国立台湾師範大学は、1994年の大学法改正前までは、教員養成大学として存在していた（計画養成：教員になるためには、教員養成大学を卒業しなければならない制度）。

- ・ 1994年以降は、40%が教員養成コースに入学しており、現在は教員養成のほか、キャリア支援や実習支援、郷土教育などの4つを中心に大学組織業務を拡大している。
- ・ 教養コースは専門科目を学ぶことができるコースである。学生は、半年の教育実習を経て、教員免許採用試験を受けることができる。
- ・ 台湾では、教員養成大学は多くあるが、その中でも、国立台湾師範大学は教員養成の歴史が古いこともあり、1番を目指している。院生も教員になるように、研修を行っている。
- ・ 本学では、教養コースが1番有名であり、日本の学習指導要領のようなものもある。
- ・ 1994年以前は、大学卒業後に教員（公務員）となることを義務付けているかわりに授業料免除である公費生制度をとって教員養成を行っていたが、師資培育法の変更に伴い教員は公務員ではなくなったため、昨年の公費生は11名のみであり、その他自費学生が883名であった。
  - 公費生は、教員免許資格を取得後、試験に合格しなくても教員になることができる。
- ・ 卒業生の教員免許取得率は85%以上であり、国内1番であろう。
  - 2012年度の教員免許取得者は805名、教員試験合格者は85.28%であり、全国平均の61.78%を20%以上上回っている。
  - このうち、80.7%が教員（正規採用、臨時採用、非常勤含む）として採用される。
  - 合格しなかった20%は、もう一度チャレンジする。
  - 一般就職者は（兵役があるため、卒業2年後）、90%以上であった。
  - 国語の教員免許をとった学生でも、編集など関連のある企業に就職する。

## ② 質疑応答

Q. 中等教育の教員養成校はいくつあるのか

A. 54校ある。

Q. 台湾では、小・中・高等学校のうち、人気が高いのはどれか。

A. 少子化が進んでいる小学校は、比較的需要が少ない。

Q. 小・中・高等学校教員の給与では、小学校が少ないのか。

A. 同じである。ただし、学歴は考慮される。

Q. 教員輔導組は、どのようなことをしているのか。

A. 地方で教員が必要になった場合に、師範大学があっせんを行っている。

Q. 教育実習先は、どのような所か。

A. 教育実習先は、次の3つである。

① 師範大学に関係のある所、②地方で必要とされる所、③教育（文科）からの要請のある所。

- ・ 卒業した5年目の実習に行くときは、この区では○学校がある、出身の区では△学校がある、というように紹介される。これは、師範大学が付属高校との関係性が良いことも要因の一つであろう。

Q. 4年次で行われる教育集中実習は、どのように行われるのか。

A. 学校は選ぶことができず、割り当てられる。ここでの目標は、自分の学科で学んだことを中学校・高等学校での実践により教員として学校や授業に慣れさせることが目的である。

Q. 実習の際には、教員は実習先訪問をするのか。

A. 生徒は1ヶ月間に1回大学に戻り、教員の指導を受けることができる。

- 大学教員は半年のうち2回訪問をする。
- 実習期間は、学部の4年生が1ヶ月に対し、卒業後は半年である。

Q. 卒業後の辺校と座談会は、大学に戻り何をするのか。

A. 学生たちが集まり、教員は指導をする。今の台湾の現状や未来のことを教えるために集まる。

Q. 教学演習会とは、どのような評価を行うのか。

A. 教員が2回の訪問の際に、学生の教え方などを見学し、評価を行う。成績表も持参し、実習先の教員とともに半々で成績をつける。

- 実習後、国家試験を受け、受かると教員になることができる。
- 国家試験に関わらず、行きたい学校がある場合、その学校に実習に行かないといけない。

- 実習に受からない場合は、受けなおすことができるが、その割合は1%未満と少ない。違反することなどをした学生が、これに該当する。

Q. 教学演習の評価フォーマットは、学校が作成することができるのか、国で決められるのか。

A. 師範大で作成したものが基本となっている。台湾の中では1番。

- 他大学が、師範大学のものを参考にすることが多いが、どの大学で作成しても良い。
- フォーマットは公表されているか、もらうことはできるか。→紙ベースでもらった。



張氏による説明の様子

### 3.4.2 Moodle による e ラーニングについて

#### ① e ラーニングの取り組み

<国立台湾師範大学における e ラーニングの取り組みについて、汪 耀華氏にご説明いただいた。>

- ・ 師範大学における e ラーニングのポイントは次の3つである。
  - ① 時間や空間に頼らず、いつでも学習できること。
  - ② 課程の管理や学習の補助として活用できること。
  - ③ 多角的な活動を促進することができること。

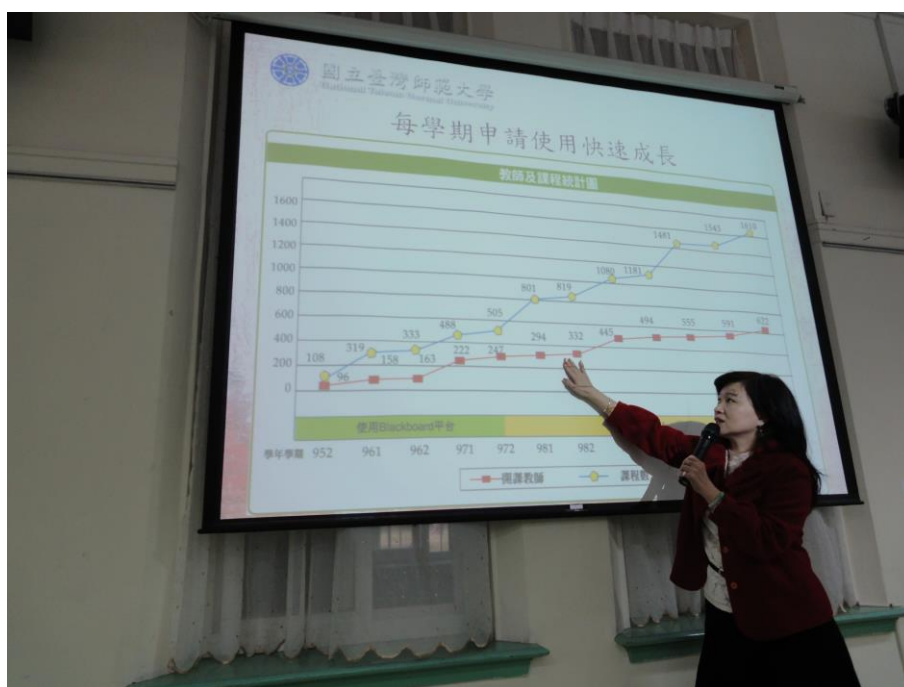


- ・ 師範大学での e ラーニングの授業は、次の 3 つの側面を持っている。
  - ① 普通の大学や大学院で実施するもの。
  - ② 補導教育クラスや、国防クラスのもの。
  - ③ 他大学の学科を取るため。
- ・ これらの授業に伴い、色々なことができる。
  - 学生が e メールを送ると、教員は質問内容を確認することができる。
  - メールは教員から 24 時間以内に対応される。
  - 学生番号と ID のみで、全ての学生が質問などを行うことができる。
- ・ e ラーニングの利用方法は、師範大学の HP のメインページ右側の部分からログインすることができる。
  - 教員がどのように e ラーニングを使用するか、どうやってやれば使えるかなどは、ネット上に書いてある。
- ・ 師範大学では、無料で e ラーニングシステムを使えるよう力を入れている。
  - ① 毎日更新できて、利用履歴が残るため、受講生の名前などが履歴に残る。
  - ② 暗証番号と学生番号があれば e ラーニングを使用することができる。
  - ③ 学生が一番良く使う e メールアドレスが把握できる。
  - ④ 以前は宿題をメールで提出する場合、生徒が教員にメールを送り、教員は毎回ダウンロードしなければならなかったが、このシステムでは、1 ページで教員が提出状況を把握することができるようにした。
  - ⑤ 教員が e ラーニングを使用することで、生徒のアドレスから出席点呼ができて楽である。
  - ⑥ 各学科でそれぞれ配布していた資料を、教員が必要に応じて選択して取得することができる。
- ・ e ラーニングは便利であってもめんどくさいと思う教員もいるため、6 つの戦略がある。
  - ① 研修を行う。
  - ② 新任教員には、e ラーニングの使い方が書いてある本を贈呈する。
  - ③ トップの経験のある教員が、ステップアップするために使い、学生とコミュニケーションをとるなどを行うことができる。
    - Moodle の詳しい内容は本でも出版されているが、やり方は様々にあり、いい取り組み実践事例は学校から奨励をしてもらえる。
  - ④ Moodle を使用すること自体が、評価の一つとなる。



- ▶ 学校でも、eラーニングの使い方説明会を行っているが、よくある質問もまとめてある。
- ・ eラーニング使用統計表によると、はじめはブラックボードを使用していたが、Moodleを独自に改良していき、右肩上がりに良いと思った人増えている。
- ・ 学校から教員に使い方の研修があり、どう指導・評価を行うかなども書いてあるため、1番簡単な指標となるであろう。
  - ▶ 教員向けに、どうやってeラーニングを使用するかを教えることができる。
  - ▶ 研修は、ステップアップ講座を設定しており、初級・中級などに分かれており、教員はそれぞれ選択して受講することができる。そこでは、次の内容が含まれている。
    - ① 一人の教員が、3つ4つと複数の科目を教える場合、どのように開講し、どう教えるか。
    - ② 成績管理の方法
    - ③ PPT資料を、教員がUPし、学生が自由にダウンロードできること（学生は授業のポイントを知りたいため）。
    - ④ 1つのクラスで小グループに分かれて宿題を出すときの評価の仕方に関すること。
- ・ 負担がないことを強調した上で、出席を手でとらなくて良い。
  - ▶ この授業で、いろんな教材をもとに1学期に何をやったかもわかる上、また次も使用することができる。
- ・ できなかったことをできるようにするのがeラーニングである。
  - ▶ 色々な応用ができる。例えば、美術科では、普通絵を描く際にはeラーニングは使わないが、描いている様子を動画に録り（宿題などは）本当に本人が描いているかを確認することができるし、良い事例はみんなに紹介し、共有することができる。
  - ▶ 教員は、優秀な生徒の作品を残し、次の学年の生徒に紹介することもできる。
  - ▶ 資料を提出した記録が残るため、成績ミスがなくなる。
  - ▶ 学校の中で、使っている教員と使っていない教員を確認することができる。
- ・ 美術、音楽、体育などはあまり使用していない状況であるが、本当に使用する必要がないのかを研究した。
  - ▶ 体育の太極拳などを録って送るなどもできるが、そうしたシステムを有効にしようしていないことがわかった。

- 音楽では、30人、40人の学生がどのくらい成長したかどうかを正確に把握することは困難であるが、eラーニングであれば1番初めと最後を録画しておき、比較することで成長度合いがわかる。
- eラーニングはこのように使用できる、ということを発表してもらい、シェアしてもらうことで広がるのではないかと。



汪氏による師範大学でのeラーニング使用状況の説明の様子

## ② 質疑応答

Q. eラーニングは対面とセットで実施するのか。

A. 予習・復習に重きを置いている。対面での授業は実施せず、eラーニングを利用して学生は履修登録をし、それに基づき名簿を作成することができる。授業後、履修生は宿題をeラーニングで提出する。

Q. 履修登録には、eラーニングを利用しないとできないのか。

A. 履修したい科目の教員が使用していたら、絶対に使わなければならない。学生は便利なので使いたがっているが、使用しない教員の場合は、使わなくても良い。

Q. Moodleを用いた授業は、学生対象だけでなく、一般向けのオープンコースはあるのか。

A. ある。

Q. 対面授業をせずに、eラーニングのみで行う授業はあるのか。

A. 今のところはない。

Q. Moodle を管理する専門の職員（教員以外で）は何人いるのか。

A. 今からはじめるため、少ない。

Q. Moodle の使い方などの研修は、誰が行っているのか。

A. 汪さんのみが実施している。教員向けに実施している。

師範大学には、経験豊富な教員が多数いるため、良い教材は、みんなにシェアすることができ、このやり方はうまく機能しており、70代、80代の教員も使っている。

Q. eラーニングを受ける学生の数はどれくらいか。

A. 80人～100人の授業といった大人数の授業は、eラーニングを使用すると出欠を取ったり宿題を管理したりするのに効率がよいため、よく使用している。

➤ 大学院の授業でも、教員と生徒が親密な交流ができ、コミュニケーションを良く取れるため、使用している。

Q. 100名規模の授業だと、教員は質問があった時など返信が大変ではないか。

A. 学生からの質問は少ないため、問題ない。

➤ 昔はeメールでやり取りをしていたため、容量が大きいレポートは送れないなどの問題もあったが、eラーニングはそれらの問題がないため、よく使われている。

Q. 他大学の学生もオープンコースは見ることができるのか。

A. 世界中の人が見る事が出来る。

Q. eラーニングの授業では、単位は出せないのか。

A. 見るだけはできるが、単位は出せない。

Q. キャリアセンターがあると聞いたが、詳しく話を出来る方に聞くことはできるか。

A. 専門の方とアポイントメントを取らないといけないため、今日は難しい。

- 役割としては、録画教材を作った教員と、学生しか見ることができないようにしっかりと管理をしている。

Q. eラーニング実習は、どういう教材なのか。

A. オープンコースで単位にならない、見るだけのものであるが、図書館の担当教員と付属校が連携して製作した。

- “Open Course Ware” は、図書館員と制作担当教員の連携により構築している。

Q. eラーニングを見ているのは学部生か、卒業生か、一般の方か。

A. 誰でも見ることができるが、学生と教育実習にいく人に特に見てもらいたいと思っている。

### 3.4.3 eラーニングの評価について

<国立台湾師範大学における eラーニングの評価と今後の展望について、黄 敏蕙氏にご説明いただいた。>

#### ① eラーニングの評価

- ・ 良い Moodle の教材を作ると表彰される制度があり、毎年優秀作品は表彰されている。
  - 2012年8月には7つが表彰された。
- ・ 表彰制度については、学校からポスターや資料を作成し、教師に向けて PR をしている。
- ・ 評価の流れは次の3ステップを踏んでいる。
  - ① カリキュラムの平均評価を満たしているか、授業の内容に関する説明表が書いてあるかなどを確認する。
  - ② 教授内容や教材、学生とのコミュニケーションが取れているか評価され、毎回、約5~7名が、選ばれる。
  - ③ 最後に審査会が行われ、どの教員が1番か、などを決定する。
- ・ 1学期に1度、優秀賞をとった教員には、そのカリキュラムを発表してもらう機会がある。
  - 研修の時などにも、表彰者からみんなにシェアする機会がある。

- ・ これから、もっと多くの教員に使ってもらえるように、演習や説明する機会を設けていきたい。
- ・ いい授業は、国（日本における文部科学省）に認められ、一般に向けて広く公開される。これらの良い授業実践を他の教員に伝えるため、作成のステップを教える場を設けている。



黄氏による e ラーニングの評価に関する説明の様子

## ② 質疑応答

Q.表彰されるような良い e ラーニングには、学生からの評価も考慮されているのか。

A.学生の意見も入っている。

Q.一度、コンテンツを作ると、大体何年ほど使えるのか。また、蓄積しておけるのか。

A.今、Moodle のシステムを新しくしており、教員が今年の夏に更新予定であるが、一度作ったものはそのまま残すことができるし、改定したい教員が、一部を修正する場合もある。

Q.新しい教材を作るときは、教員個人で作るのか。

A.教員が基本的には個人で作るが、スタッフが手伝う場合もある。

Q.Moodle の教材開発は誰が行っているのか。

A.情報センターでシステム管理をし、図書館担当者が動画部分の作成をサポートしている。

Q.専任教員のみが Moodle を使用しているのか、それとも非常勤講師も使用しているのか。

A.全ての教員が使える。卒業後の半年でも使用したいと今考えているところである。

### 3. まとめ

- ・ 教育実習の際の評価は、師範大学が作成したフォーマット（他大学でも多数活用）により、統一した評価をすることができるしくみは、今後の教員養成において非常に参考にしたい点である。
- ・ e ラーニングを活用する場면을授業のみに限定せず、生徒とのコミュニケーションをとるツールとして活用し、出欠などの際の教員の省力化に主に活用していることがわかった。
- ・ e ラーニングの使い方や作り方などのマニュアル本を作成し、HP や対面での講習をうけるしくみをつくり、誰でも e ラーニングを利用することができるよう整備している点は、e ラーニング教材を作成する教員のサポート体制を考える上で、非常に参考になる。
- ・ 学生の方が、e ラーニングを試用して欲しいとの要望が強いことから、本プロジェクトにおいても、今後、学生のニーズ調査をし、効果的な教材開発につなげたい。
- ・ e ラーニングの評価方法をしっかりと定めていることを確認した。
- ・ e ラーニングの優秀教材を、広く紹介して他教員にも伝える機会を設けることで、多くの教員に教授法や活用のメリットを伝えるのみならず、教材作成をする教員のモチベーションの向上にも繋がる点については、本プロジェクトにおいても、取り入れたい視点である。

以上